

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤沢駅北口計画 新築工事	階数	地上15F
建設地	藤沢市藤沢字東横須賀548番1外30筆	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	784 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年12月 予定	評価の実施日	2015年10月7日
敷地面積	4,094 m ²	作成者	株式会社長谷工コーポレーション
建築面積	1,604 m ²	確認日	2015年10月7日
延床面積	18,008 m ²	確認者	株式会社長谷工コーポレーション



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.7</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 72% ③上記+②以外の 72% ④上記+ 72%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア = 4.0	Q2のスコア = 3.4	Q3のスコア = 3.0
音環境: 3.1, 温熱環境: 4.7, 光・視環境: 3.5, 空気質環境: 4.2	機能性: 3.9, 耐用性・信頼性: 3.1, 対応性・更新性: 3.0	生物環境: 3.0, まちなみ・景観: 3.0, 地域性・アメニティ: 3.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 4.4	LR2のスコア = 2.4	LR3のスコア = 3.4
建物外皮の熱負荷: 5.0, 自然エネルギー: 3.0, 設備システム効率化: 5.0, 効率的運用: 3.0	水資源保護: 1.0, 非再生材料の使用削減: 2.6, 汚染物質回避: 3.3	地球温暖化への配慮: 4.1, 地域環境への配慮: 3.0, 周辺環境への配慮: 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>道路に沿って豊かなポケットパーク、沿道に植栽を確保するとともに、アースカラーを基調とした外壁を用い、住宅らしい温かみのある景観の創出に努めた。</p>		0
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 住戸の開閉部には庇及びカーテンレールを設置し、日射への対応に配慮している。 部材にはF★★★★、VOC放出が極めて少ない建材を採用し、環境に配慮している。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 共用部維持管理等級2、劣化対策等級3を取得予定。 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤沢市景観計画区域の基準に基づく色彩配置としている。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> エコジョーズ採用により、エネルギーの有効利用を図った。 住戸の開閉部は全て2方向面以上に面しており、有効な通風と採光が確保されている。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 内装の更新性に配慮し、二重天井、二重壁を採用している。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐輪場200%を確保した上、バイク置場を設置することで周辺の交通負荷軽減に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される